

vol.  
188

今月のお題  
.....

## 天文学の中のつながりを魅せる

天文学研究は、観測波長や理論と観測の枠にとらわれることなく有機的に繋がりながら進んでいます。それをどうやってお見せしたら楽しいか、というお話。

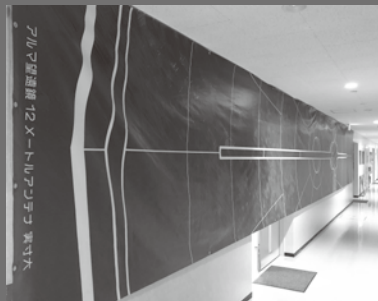
高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台)

10月に開催された国立天文台三鷹キャンパスの特別公開『三鷹・星と宇宙の日2019』。25日(金)のプレ公開は残念ながら大雨警報のために中止となりましたが、26日は好天に恵まれ多くの方にお越しいただきました。

国立天文台三鷹キャンパスにはさまざまな棟、アルマ棟、開発棟などいくつかの建物があり、プロジェクトごとに居室や実験室を持って仕事をしています。特別公開ではこれらの多くの建物が公開されるのですが、多くのプロジェクトの出し物が別々の建物で行われるので、全体を見通すことが難しい、というのが難点でした。個々の研究を深く知るのも面白い一方、ひとつの研究をいろいろな角度から見てみるのも楽しいと筆者(平松)は思うので、縦割りの弊害が出てしまうのは残念です。これまではスタンプラリーをしながらいろいろな建物を回ることのできる展示を見ていただくことができたので

すが、もっと中身のつながりに注目しながら見て回ってもらえないかということで、今年は新たにモデルコースを提案して当日配布のパンフレットに盛り込んでもらいました。例えば「輝く宇宙探索コース」であれば、可視光観測をするすばる望遠鏡、TMT、太陽観測科学プロジェクト、位置天文衛星JASMINEをめぐるコース、「見えない宇宙探索コース」であれば、可視光以外を観測する重力波プロジェクト、アルマ望遠鏡、水沢VLBI観測所、野辺山宇宙電波観測所、そしてスパコンを運用する天文シミュレーションプロジェクトを巡ります。太陽系研究をめぐる「身近な宇宙散歩コース」やゲーム要素のある企画をめぐる「宇宙を遊ぼう」コースなど、全部で7つのモデルコースを設定してみました。

参加した皆さんにアンケートを取ったり、モデルコース修了証のようなものを作ったりまではできなかったのですが、実際



アルマ望遠鏡展示の新ネタ、12mアンテナ実物大横断幕。廊下を歩きながら、地球の反対側で活躍するアンテナの大きさを感じることができます。

にどれくらいの方がコースに沿って巡ってもらえたかわからないのが残念なところですが、来年は効果測定をちゃんとやることも、もっとプロジェクト横断的な企画を増やしたいところです。可視光望遠鏡と電波望遠鏡と重力波望遠鏡とスパコンと人工衛星・探査機計画をすべて持つ天文学研究機関は世界に類を見ないので、天文学のあらゆる範囲をカバーする国立天文台の姿をもっと面白く見せられる方法を、これからも探していきたいと思っています。